

(主催)大阪教育大学 教職教育研究センター、識字・日本語学習研究集会実行委員会(主催)識字・日本語連絡会、おおさか識字・日本語センター(後援)大阪府教育委員会(予定)、大阪市教育局委員会(予定)、堺市教育局委員会(予定)



第3回 識字・日本語学習研究集会

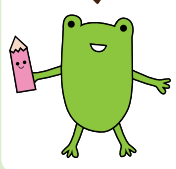
よみかきことば・つながるための学習を支援する

日時 1/22(日) **会場** 大阪教育大学
天王寺キャンパス西館ホール、その他

全体会 10:00-12:00 (分科会13:30-16:30 ※詳細は裏面をご覧ください)
『社会的困難を生きる若者の学習支援を考える』

●対象 識字・日本語教室参加者、夜間中学校関係者、学校教員、行政担当者、市民団体等

申込・問合せ先



名前・連絡先・希望分科会をご記入の上、FAX・メールでお申し込みください。
一時保育(対象年齢は6カ月～就学前児童)を希望される場合は、お子様の名前・年齢(月齢)をご記入の上、1/6(金)までにお申し込みください。

大阪教育大学 TEL 072-978-3253 FAX 072-978-3554
学術連携課 地域連携係 Eメール renkei@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

定員 **150人**
無料

分科会 (13:30 - 16:30)

A 人権としての識字・日本語学習～生き立ちをつづる、生活をつづる、未来をつづる～

大阪における識字・日本語学習の特徴のひとつは、人権という観点を土台に据えて展開されていることだといわれます。被差別部落の識字学級や夜間中学校においては、自らの生き立ちや暮らしをつづることが大切にされてきました。このつづるということ、自分を表現することがどういう意味を持っているのかを学習者を中心に話し合います。

B 識字・日本語等基礎教育保障の動向

夜間中学校等の関係者の働きかけによって、夜間中学校の設置促進や入学条件の緩和などが図られるようになり、教育機会確保法も成立しました。また、基礎教育保障学会が設立され、識字・日本語学習など基礎教育の充実に向けての調査や提言を行うことになりました。部落差別解消法も制定されました。このような動向が、夜間中学校の教育や識字・日本語学習にどのような影響をもたらすか、またどのように活用されるかについて、各校・各教室の情報交流と討議をおこないます。

C 日本語学習の必要な子どもたちへの支援をめぐる現状と課題

2014年の文科省の調査では、日本の公立学校に在籍する外国人児童・生徒数は73,289人、一方、大阪府の日本語指導の必要な児童・生徒数が約2,550人。しかし、実際には日本語学習を必要とする子どもたちの数はこの数倍といわれています。そこで、この分科会では、外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語・母語教育を中心とする学習支援について学校や団体の取り組みの報告を受け、子どもたちが自分らしく、安心して暮らせる環境づくりをめざして支援のあり方をともに考えます。

D 識字・日本語教室の運営を考える

大阪府内各地においては、識字学級や日本語教室が様々な形態で取り組まれています。昨年に引き続き、それらの多様な実践を持ち寄り、交流することを通して、あるべき教室運営について考え、それぞれの取り組みの充実を図ります。2016年4月から大阪教育大学天王寺キャンパスにおいて開設されている識字・日本語教室「しきじ・にほんご天王寺」の取り組みにも活かされることを期待しています。

E 識字は何を創ってきたのか

この分科会では、識字の歴史をひもとき、どんな活動をしてきたのか、そこでは何が大切にされてきたのか、そして何を創ってきたのかをふりかえります。大阪教育大学の識字・日本語学習支援ルームには、識字に関する映像資料が集まりつつあります。それら豊富な映像を活用し、参加者のみなさんとともに、識字について学ぶとともに、これからの識字について考えます。



会場

大阪教育大学 天王寺キャンパス

〒543-0005
大阪市天王寺区南河掘町4-88

JR・地下鉄 天王寺駅、
近鉄大阪阿部野橋駅より700m
JR 寺田町駅より300m